

複式学級担当者からのアドバイス

Q 1 多様な意見や考え方に触れさせることが難しい。

- A 1
- ・教師が人形(パペット)などを利用して、子どもの考えを広げたり、対立したりする考えを提示して、ゆさぶりをかける方法があります。
 - ・全校児童による討論集会、近隣校との交流学習会やウェブカメラによるテレビ会議等が考えられます。

Q 2 1・4年生の複式学級では、指示をしても全員が理解できにくい。

- A 2
- ・4年生が下学年の児童に説明したり、手本を示したりするといいです。
 - ・下学年には書面での指示も加えると徹底ができます。

Q 3 異学年の学習内容が気になり、学習に集中できにくい。

- A 3
- ・両学年の児童の座席配置を背面型にしたり、L字型にしたりと、学級に適した座席配置を探してみましょう。
 - ・学習ルールを徹底させましょう。最初は気になるでしょうが、やがて雰囲気慣れれば集中できるようになります。

Q 4 間接指導時に、待たせる時間ができてしまう。

- A 4
- ・具体的な学習の手順を示したもの(ガイド)を提示するとともに、個別または子どもたち同士で相談しながら進めていけるように指示します。【資料 参照】
 - ・自力解決ができない場合は、ヒントカードや能力に応じたワークシートを提示するとよいでしょう。また、直接指導(課題提示)の際に、自力解決に必要なことがらをしっかり押さえておきます。
 - ・復習プリントや発展問題、自習用の学習ソフトを事前に準備しておきましょう。

Q 5 「わたり」が成立しなくて困ることがある。

- A 5
- ・直接指導時にはわたらないことも大切です。間接指導時に自力解決できる学習課題を与えましょう。また、間接指導時に自分たちで学習を進めていける学習集団づくりも大切です。
 - ・特に、国語科については、本HPのアイデア実践集「2-10 児童に見通しをもたせる学習の手順の例～国語科での取組～」が大変参考になります。

Q 6 社会科の見学や理科の実験・観察の指導に困る場合がある。

- A 6
- ・社会科の見学は、両学年の見学の時期を合わせて、一度に両方へ行くようにします。該当学年の学習内容と異なる見学地については、予習・復習ということで捉えます。
 - ・理科の実験は、同時に実験をするのではなく、1時間の中でずらして行います。また、危険を伴う実験の際には、二人体制で指導するようにします。
 - ・縦割りA・B年度方式で行う方法もありますが、統廃合に伴う児童生徒の転出入等を考え、年間指導計画の作成には十分配慮する必要があります。

【資料】 学習の手順の例(算数科 第1学年「ひき算(2)」、第2学年「かけ算(2)」)

- ・両学年を組み合わせたものを作成する。
- ・児童には学年別に切り取ったものを授業開始前に渡す。

※ ○は直接指導、●は間接指導

1年	ひきざん(2)	2年	かけ算(2)
0	● きょうかしよ 100 ページの ひきざんカードで、こたえが 9 になるものに、ブロックをおく。 ☆ぜんぶで 8 まいあります。	○ いっしょにもんだい①をとき、めあてのかくにんをする。	
5			
10	○ もっとはやくけいさんできるように、こつを見つける。	● 教科書 P 32 の ②と③ をノートにとく。 ☆ 図または絵、しき、こたえ をかく。	
15		☆ できたら、ホワイトボードにかく。 △△さん→② のもんだいをかく □□さん→③ のもんだいをかく	
20		☆ ホワイトボードにかけたら、九九のいが手なだんをれんしゅうする。	
25			
30			
35	● ひきざんカード(2)の れんしゅうをする。 ☆ 3かい、れんしゅうしよう。	○ 考えをはっぴょうする。	
40	☆ 3かいおわったら、プリントをしよう。		
45		(● 学しゅうちょう 19 ページをする。)	